

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 5 年 1 月 31 日

公表:令和 5 年 2 月 1 日

事業所名 チャイルドウィッシュ江南

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			現在利用児童数が少ない為、スペースには余裕がある。
	2 職員の配置数は適切である	4			利用児童数に応じた人員を配置し、安全に配慮している。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	1		まだまだ改善が必要と思う。 絵カードを用いて視覚的に流れが分かりやすいようにしている。 階段が少し急だが、両側に手すりが付けられ配慮されている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4			消毒が行き届いている。 毎日清掃と消毒を欠かさずに行っている。 子どもの発達段階に合わせた遊具を揃えている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	2		日々の業務で忙しく、1人1人の目標を確認し合う機会は少ない。 毎日の振り返りはなるべく行なうようにしている。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	2		新規オープンの為、まだこれからとなる。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1		新規オープンの為、まだこれからとなる。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4		第三者評価は対象としていない。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	2		定期的な研修、外部研修には積極的に参加している。 定期的に本部のオンライン研修が行なわれている。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2		全てに適用されていない。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3	1		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	4			既存の利用者に合わせたイベント案を考えている。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			様々な遊具を組み合わせた環境設定を行なっている。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		1		個々に確認してもらっている。 支援の前に常動間で簡単な情報共有をしている。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		1		送迎の関係で、できていない。 支援後、または翌日に常動を中心に振り返りを行なっている。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			必ず日々の記録を記入し、確認するようにしている。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4				

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	1		積極的に連絡し、共有を図っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		4		対応していない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		4		対応していない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1		必要時に会議を開いて共有している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2		相談員さんと何かあればすぐに連絡を取り合っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	3		地域との交流はあまりない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	3		今後、積極的に参加を検討している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			送迎の際には、その日の様子など必ず伝えるようにしている。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	2		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	3	1		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			保護者支援に力を入れている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4		保護者会等はできていないが、交流できる機会を作れると良い。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4			保護者から苦情や相談等あった場合には、常勤間ですぐに情報を共有し、ミーティングや話し合いの場を設けている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			月に一度、お便りを作成してお渡ししている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4			施錠の徹底、外部からの覗き防止等。スタッフ間の会話時の配慮。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			1人1人に適した方法を考え、実施している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3		定期的にゴミ拾いをしている。今はできていないが、夏祭りや運動会など地域でも参加できるイベントがあると良い。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	2		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	1		半年に一度、避難訓練を実施している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	1		アセスメントを保護者に記入してもらい、共有している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2		食物アレルギーには十分注意している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	1		何かあればすぐに記入するようにしている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	1	3		今はできていないが、定期的に研修を行なっていると良い。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		4		重度行動障害の児童はいない為、必要時対応。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。